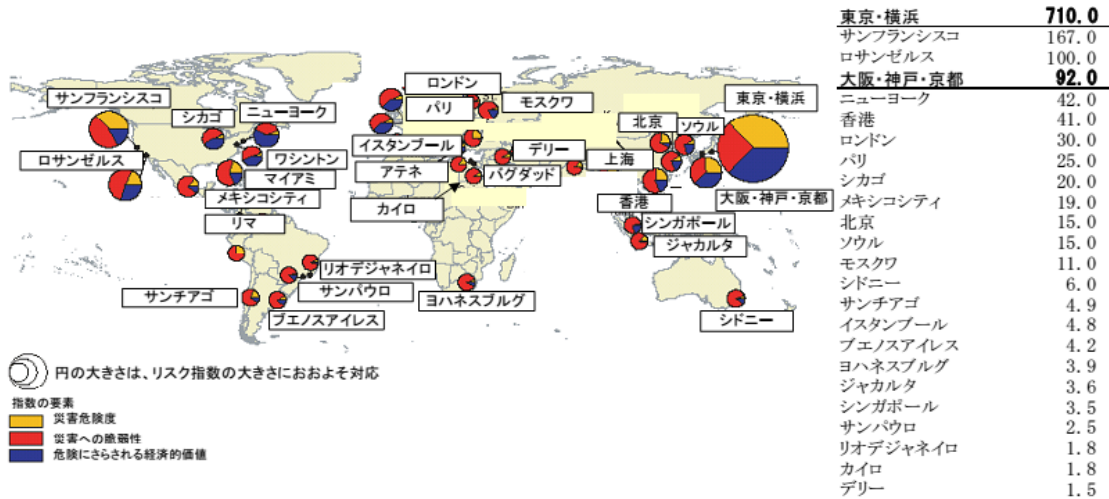


首都圏の地震活動の特異性

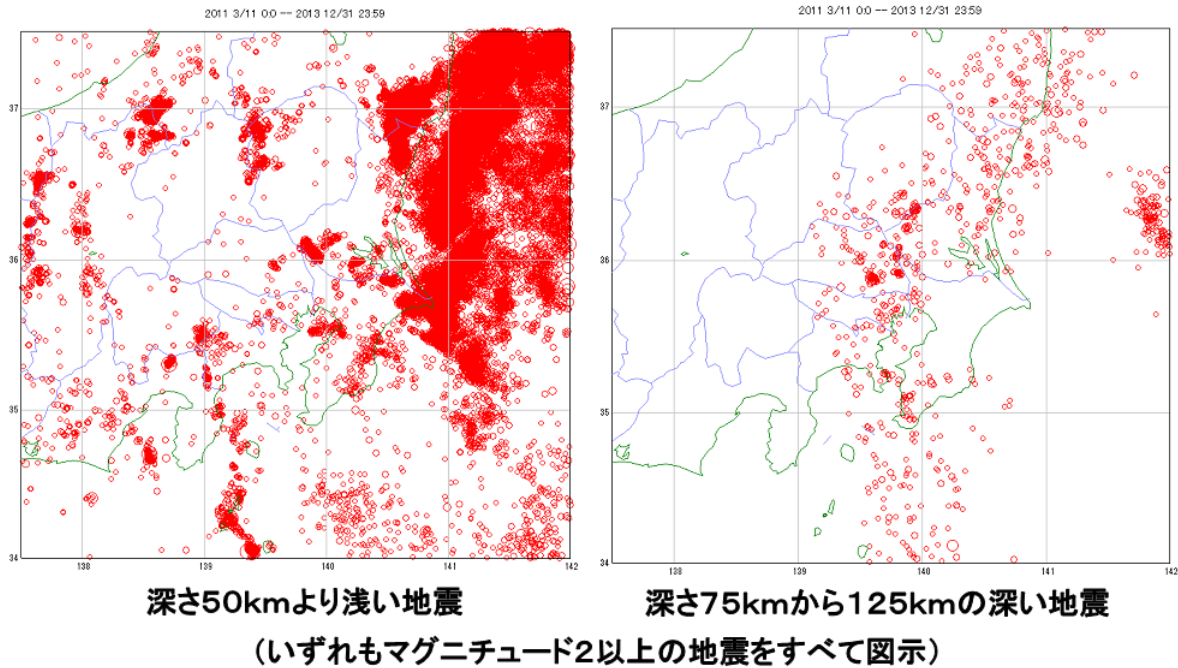
これまでも何度も首都圏の地震活動が極めて複雑である事を述べてきました。これは世界でもまれな2つのプレート（太平洋プレートとフィリピン海プレート）が重なりあっている所に世界最大級の大都市が位置している事です。以下の図はミュンヘン再保険会社による世界の大都市の災害リスクですが、東京・横浜が地震の危険性のために圧倒的に大きな値となっている事がわかります。

ミュンヘン再保険会社によれば、東京・横浜の災害リスク指数は、他国に比して格段に大



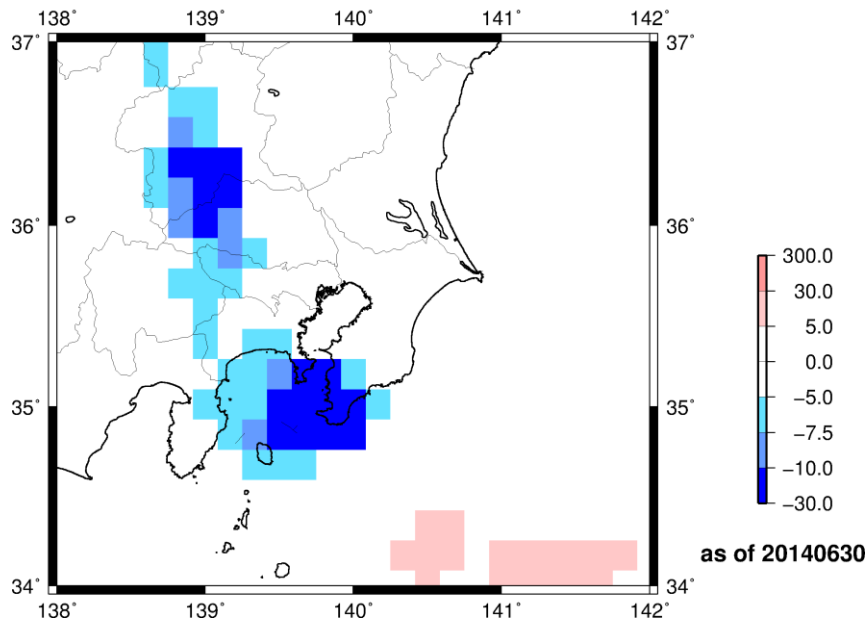
その一つの証拠となりますのが、下に示します首都圏の深さ別の地震活動です。

関東地方の地震活動(2011年3月11日—2013年12月31日)



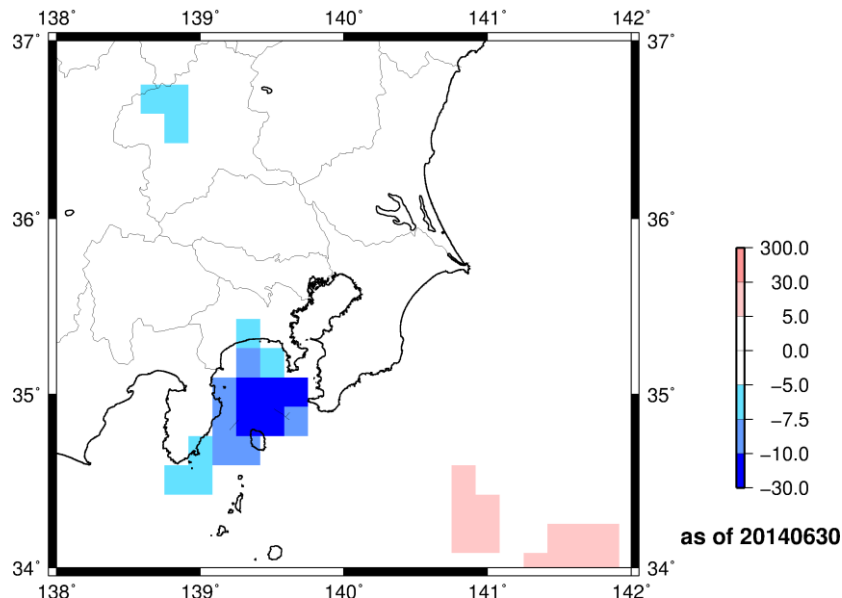
東京都の直下では実は浅い地震（左）も多く発生していますが、東日本大震災を引き起こした太平洋プレートの沈み込みに関係する深い地震も数多く発生しているのです（右）。このため、我々はこの沈み込むプレートの構造を考慮した解析が出来ないか試行錯誤してきました。現在、プログラムはほぼ完成

し、色々な場合について試験的に計算を実施しています。下の図は東日本大震災以降の従来お示してきた地下天気図です。計算は実は地表面（＝地下0 km）で実施しています。2011年以降の3年半のデータの解析ですので、非常に短期間の地震活動のゆらぎ示しています。



下の地下天気図は、80 kmという深さに基準面を置いた計算で、沈み込む太平洋プレートの異常をより強く反映していると考えています。

例えとしては**地上天気図**と**高層天気図**に相当するものとお考えください。今回の6月末時点の計算では、房総半島南部から相模湾に共通した異常が現れています。今後はこのようなプレートの構造も加味した解析を加えて、首都圏の地震活動の解析・監視を行っていきたいと考えています。



ちなみに上記の地下天気図からすぐに相模湾が危ないという事ではありません。非常に短期間のゆらぎであり、さらに異常の面積も小さい事という理由です。今後も継続して監視していきたいと思います。